



新編

金瓶梅



五集

馬聚作
國良印

村
文





馬琴作
國貞画

上套

上

九上



新編

金瓶梅

五集之

壹 馬琴作 國貞画

甘泉堂精刊



壹

悪あくの善ぜんの敵あいて禍福離合わざはひあはれ比隣とまのぢ之然しか己おの家の艱あはれ孝子うやまひ顯あらわれ國くに乱みだれ忠
 臣おん出いでづ果敢はつたる策さく子物語ものごとの善ぜんと勸すすむ與ありて悪あくと痺しびる趣おもて寫かく
 仁人にんじん君子くんし忠義ちゅうぎ士孝子うやまひ賢女けんにょ淫奔いんぱん多おほく奸民けんみん妒婦どふ孽妻ねっさい穢けがれおほく
 かりかり西門せいもん啓けいが富とちて奢あはれおほ一世いつせいの榮華えいげと倘たう羨せんまおほ亦是これ人面獸心にんめんじゆうしん人ひと凡たゞ彈ひと
 做しえの武松ぶそう琴柱ことばが孝悌こうてい徳義とくぎ非ひ如ごとく止とどまおほ人も鏡かがみの我心こころと照あらわるおほく
 稔しづむおほく一善いちぜん進すすむ一惡いちあく退ひく此こゝを思おもひ彼かを怕おそれおほく獨ひとりと慎しんむ種たね子この做しれおほく
 為なるおほく容ゆるむ世話よせわと焼刀やうたうの稜りやうの物もの本趣ほんしゆ向むかはおほれおほく易やすく作者さくしやの壁生草かべうまの幾いく
 まも存命ぞんめいる身みを壽しゆ糸いと活かる金かねの瓶びんの梅花めいげあり実じつありおほく鳥とり澗かんが四集ししゅうの依よりて
 去歲こぞの休筆しゆひつ急いそぐおほく免ま本の校合がうがう果はくおほく今いまの五集ごしゅうの殊こと更さらも念ねん入い綴ずいり申まを儀ぎ以も序しよ

天保 丁酉年秋九月上澣創稿
九年戊戌正月吉日新版

馬琴半仙戲述





鳴く
東訛

云々

尾は

春雨乃

楠一味
奴隷葛平

船館
帆九郎



曲水の御遊闘
鶏の故事

黒石鶏の
擬

長談

庵集

名歌

句調

鳥高
箕大夫



小人罪々
壁と抱れて
罪あり明の月
と花の矢の
中る刃小
血ちり顔の業平
迷い盛遠片頬焼
れ怨も向へ
多き針の房に
あつらひ
猿頬貝
恋も多
身とさう
られおけり

印
印

西門屋の
主菅寒八

西門屋の小厮
笑二



仁王が妻の黒暗
天女の壁言
の婦の
鬼の女
房小鬼
神不測の鏡勇
旅月力の所謂と
是も亦
女郎花
まこととこぼりおれませ
くわらわらふ
勝収秋風
雷
雨

巨婦
黒暗天
字雄

小相撲
行抜浦呂三郎

小相撲
蝟形山保止吉



新編金瓶梅第五集

上套

下

戊戌孟春
新刻魁本



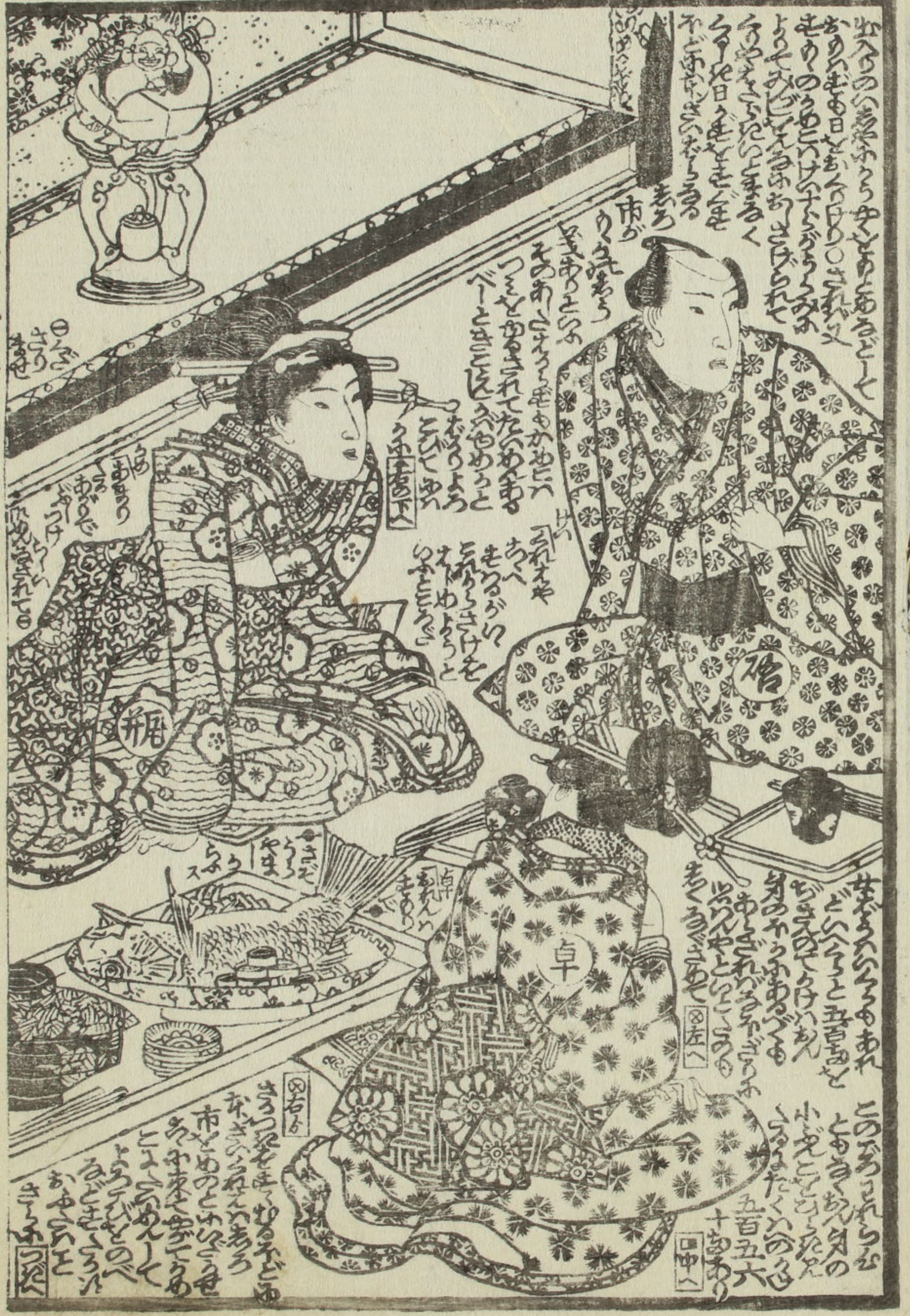


世用之海集

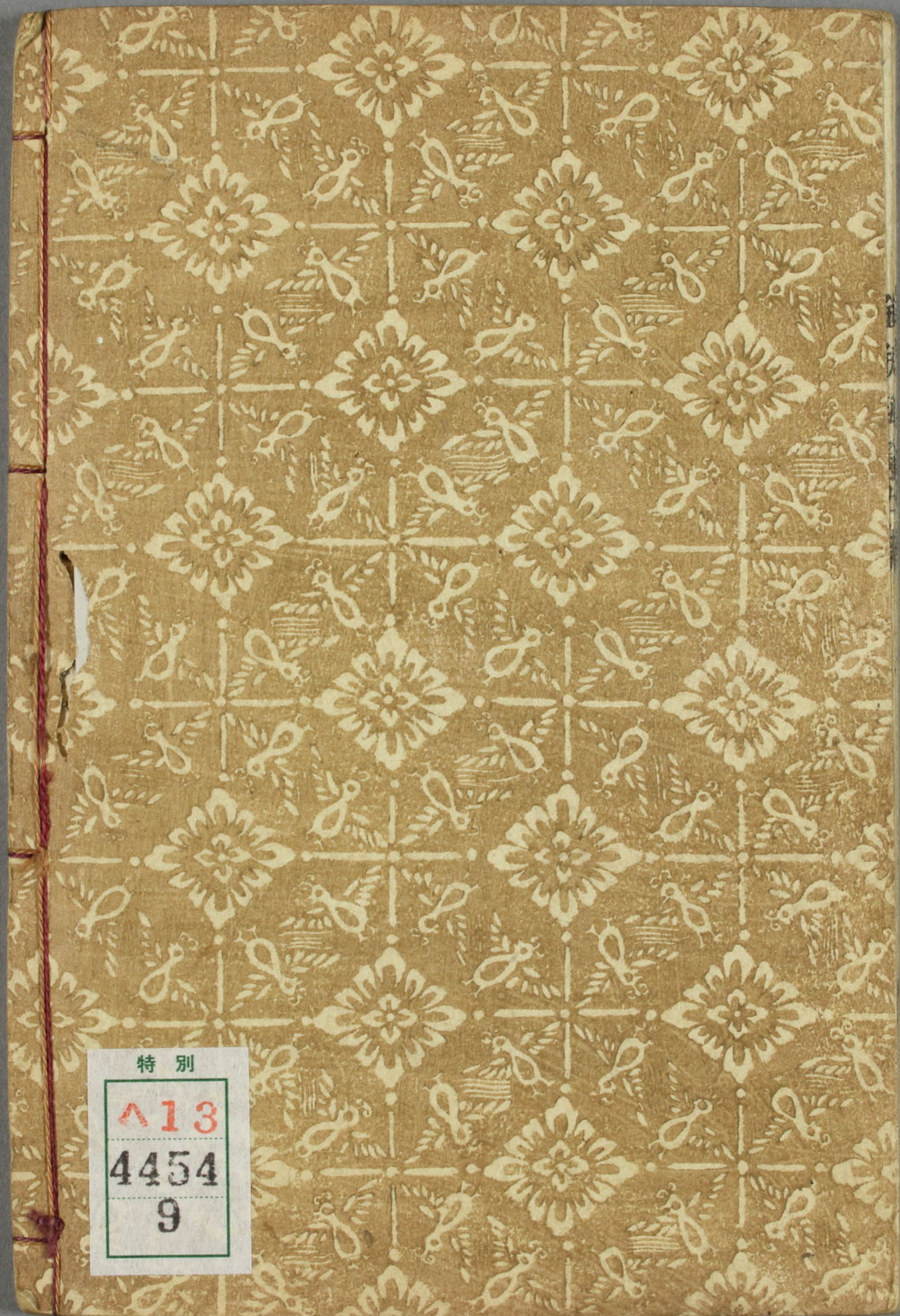
彩編
 重瓶
 釋五集
 武馬琴作
 國貞画

江戸芝神明前之嶋町
 地本問屋和泉屋市兵衛





Vertical text on the left margin of the left page.



特 別
A13
4454
9